

# 制度改悪が担い手不足加速

## 介護の現場

2021年報酬改定

②



門脇めぐみさん

ナに感染した要介護者について、入院先が見つからない場合は訪問介護が必要なサービ

スを提供するよう求めておきながら、ヘルパーのワークシン接種は後回し。「GO TO トラベル」やオリンピック開催への固執…。「現場を一番傷つけてるのは政府」だと強調します。

高齢化は介護業界全体に共通しますが、訪問介護はひときわ深刻です。全日本労働組合総連合が2019年に発表

した調査では、ヘルパーの73%が50歳以上。60歳以上も4割近くに上る一方、20代は1%

ながら、ヘルパーが低い単価で扱われる専門学校も、08年の271校から20年には217校へ減

り続けています(日本介護福祉士養成施設協会調べ)。

門脇さんは、求人広告を出すなど手を尽くしたものへ募がきたけど、いまは非常勤ヘルパーの補充は全くできていません。

「10年前なら非常勤でもむづかしかった専業主婦がいなくなってきた」実際、自公政権が進めた「雇用破壊」が非正規雇用を男性でも一般的にしたことでも、共働きが急増。09年から19年の間に共働き世帯が250万世帯増加する一方、専業主婦世帯は250万世帯減っています。

### 家族の負担増に

門脇さんは、ヘルパーには高い専門性と責任がともなう

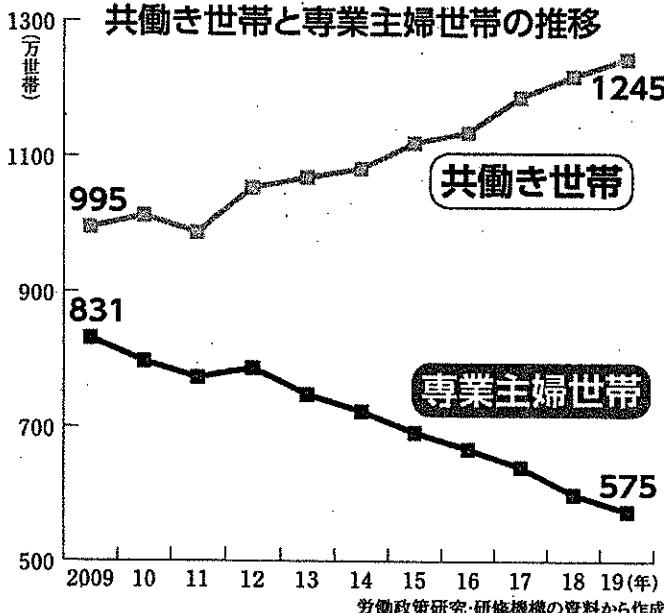
とし、無資格者で担わせるという発想自体に無理があると述べ、総合事業を廃止し、介護保険サービスに戻すべきだと語ります。

千葉市などで介護事業所を運営する千葉労働者福祉会の門脇めぐみ介護部長は、新型コロナウイルス感染症の第1波が収まつた8月に8人の非常勤の訪問介護員（ホームヘルパー）が退職したと語ります。

「みんなやりがいを持って働いていたベテランばかり。ヘルパーが高齢化し、自分の家族から感染が心配だからやめてくれといわれるケースが多い」

### 補充全くできません

「口口ナをめぐる政府の言動も、介護現場の意欲をそいでいる」と批判します。新型コロ



「みんなやりがいを持って働いていたベテランばかり。ヘルパーが高齢化し、自分の家族から感染が心配だからやめてくれといわれるケースが多い」

「みんなやりがいを持って働いていたベテランばかり。ヘルパーが高齢化し、自分の家族から感染が心配だからやめてくれといわれるケースが多い」

「みんなやりがいを持って働いていたベテランばかり。ヘルパーが高齢化し、自分の家族から感染が心配だからやめてくれといわれるケースが多い」

い打ちをかけています。

政府は、総合事業のサービスはボランティアなど無資格者でも担えるとして、報酬単価を低く設定。ところがボラ

ンティアは集まらず、有資格のヘルパーが低い単価で扱われるを得ない事態が全国で起きています。

「ヘルパーは、訪問先のにおいや散らかり方、冷蔵庫の中身などから利用者の状態の変化を把握する。早期に変化に気付き、対応することで、身体機能の低下や認知症の重症化を防ぐ」といひながらっていいます。

門脇さんは、ヘルパーには高い専門性と責任がともなうとし、無資格者で担わせるという発想自体に無理があると述べ、総合事業を廃止し、介護保険サービスに戻すべきだと語ります。

地域から訪問介護事業所がなくなれば保険料を払っても介護は受けられなくなる。結局、家族の負担が増え、介護離職につながる。また、働く子どもが介護を担つやうとして子どもも増えており、介護保険制度の改悪は全世代に影響してくる」(つづり)